

◆カラー作品◆

キャリー

CARRIE

* シシー・スเปイセフ *
* ジョン・トラボルタ * パイパー・ローリー *
製作 ホール・モナンユ ◆ 監督 フライアン・テ・ハルマ
原作 スティーブン・キング (新潮社刊) ◆ 脚色 ローレンス・D・コーエン

★ キャリーをいじめないで！
彼女が泣くと恐ろしいことが起こる……



キャリー

United Artists
A Transamerica Company
ユナイテッド映画

〈カラー作品〉

★スタッフ

監督……………ブライアン・デ・パルマ
原作……………スティーブン・キング〈新潮社刊〉
撮影……………マリオ・トッソ
音楽……………ピノ・ドナジオ

★キャスト

キャリー……………シシー・スペイセク
マーガレット・ホワイト……………パイパー・ローリー
スー・スネル……………エイミー・アービング
トミー・ロス……………ウィリアム・カット

CARRIE

◆猛火と鮮血の中に立ちつくす 狂乱の少女！

それは少女の白く細い下肢から糸を引くように伝い落ちた。突き刺すようなクラスメートたちの注視の中、少女は恥しさと恐怖の入りまじったわけのわからぬうめき声をあげ、必死に助けを求めた——。17年目の春に突然訪れた女へのしるし。ただでさえ異常に遅い初潮年齢に加えて、問題は、少女がその事実に完全に無知のまま17年間を過ぎてきたことだった——！

これは、アメリカ東部の小さな町の学園を背景に、自らの意志のみで物体を動かし、破壊するという恐るべきエネルギーを秘めた少女が巻き起こすショッキングなサスペンス・ドラマだ。ヒロインの名はキャリー。異常な出産の結果、この世に生を受けたキャリーは、内では狂信的な母親との凄まじい葛藤を展開し、外では残酷なクラスメートたちのむごい仕打ちにひたすら耐えてきた悲しみの少女。内向的で常におどおどした態度がクラスメートの格好の悪意の対象になってきたキャリーにも、しかし、たった一つの武器があった。テレキネシスという念動能力だ。彼女が極度の精神的ストレスに落ち込んだ時、それは凄まじい速度で発動する。電気がショートし、鏡が割れ、すべての置物が引っくり返る。それはマグニチュードのエネルギー。だから、間違ってもキャリーにその力を発動させてはならなかったのに、一握りの悪友たちの企みが、ドラマを取返しのつかない血と炎の惨劇へと突き落とす。満身に怨みを漲らせ、紅蓮の炎の中に浮かびあがったクライマックスのキャリーの鬼気迫る姿を、果たしてあなたは正視できるだろうか——！?

◆「エクソシスト」「オーメン」を凌いで 全米興収第1位！ (バラエティ紙1/4・1/8・1/8号)

<「キャリー」はスペクタクルだ！>

まさにダイナマイト・シネマ。破壊力をそなえたあらゆる場面があなたの瞳を見開かせずにはおかない。映画ファンには応えられない楽しみがまっている。——<タイム>

<身の毛もよだつ恐怖映画の快作！>

新しい恐怖映画の古典が生まれた！ サスペンスとしての満足感「ジョーズ」に匹敵するものがある。映画が終っても、貴方の神経はなお昂ぶり続けているだろう。——<ワシントン・ポスト>

<どこからくるこの恐怖！>

上質の恐怖感がほとんど切れ目なく続く。自然発生的に金縛りになった身体を解放するのは容易なことではない。——<フィラデルフィア・デイリー・ニューズ>

これらジャーナリズムの興奮と絶讃を裏打ちするように、76年11月初旬全米430館の超拡大でスタートした興行は「エクソシスト」「オーメン」を凌ぐ快走ぶり。1ヵ月足らずの間に邦価24億円を上げ、現在なお2位以下を大きく引き離してヒット街道を轟進中である。

◆UAパラサイコ・シリーズ第1弾 まったく新しい恐怖がやってきた！

「キャリー」はまったく新しい恐怖「パラサイコ・シリーズ」の第一弾だ。パラサイコとは精神感応、透視力、異常能力などの総合的形跡をさす異常心理学分野の言葉。従来のオカルトもの「ローズマリーの赤ちゃん」「エクソシスト」「オーメン」などが、悪魔主義や宗教的側面と大きくクロスした見世物的要素が濃かったのに反し、今度のパラサイコ・シリーズは、人間本能の底に潜む異常心理・超能力の世界、つまり一概に非科学的と決めつけられない領域に踏みこんで、斬新なエンタテイメントの創造に成功しているのが特色。人間の異常能力を描いた「キャリー」を皮切りに、オブセッション(憑きもの)テーマの「家」、リバース(霊魂再生)テーマの「オードリー・ローズ」など、まったく新しい恐怖感が77年の映画界を席捲することになる！

すでに100万部を売り切り、いまだベストセラーの上位をひた走るスティーブン・キングの原作をベテラン、ラリー・コーエンが脚色、第2のヒッチコックと目される鬼オブライアン・デ・パルマがメガホンを握った。「裏窓」と「サイコ」に触発されて映画界へ飛び込んだというデ・パルマ監督。大向う受けのするショック演出の数々はすでにベテランの貫録。また醜いアヒルの子が精神的緊張を発火点に、忽然と超能力魔女に変身するプロセスを心憎いまでの心理描写で演じ切り、76年全米批評家協会主演女優賞に輝く新人シシー・スペイセク、15年ぶりにハリウッド復帰を果たしたパイパー・ローリーの熱演もこの作品の大きな話題だ。

◆あまりにも凄まじい場面に 全米各地で失神者続出！

「キャリー」の数多い見せ場の中でも、まず筆頭に挙げられるのが、クラスメートの残酷で悪らつな仕掛けにはまったキャリーが、舞踏会に居合わせたすべての人々を会場に封じ込め、炎の復讐を果たすシーン。映画史上屈指のパニック・スペクタクルとしてまた悲痛なクライマックスとして永遠に記憶されそうな迫力とパワーをそなえている。

また、トップ・シーンでキャリーが鮮血のショックにおののく場面もドラマの展開を暗示するにふさわしい不気味な迫力をそなえていてこれまた圧巻。そして、いまはまだエチケットとして伏せておきたいラストの想像外の結末。さらにキャリーの超能力が徐々にその正体をあらわすシーンなど、全米各地で失神者が続出し、ニューヨーク、シカゴなど一部の劇場で医者を待機させ始めたという報告も、映画を見終えたなら実感として受けとめてもらえるはずだ。

近日ロードショー

東銀座 松竹セントラル (541) 2714

● 地下鉄東銀座駅下車